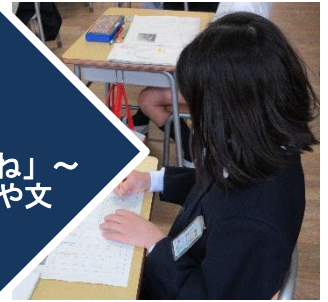


令和2年度 学力向上推進事業

友和小学校 研究授業～11月17日(火)～

第1学年1組 国語 単元名「めざせ!『のりものずかん』でのりものはかせ」
～のりものことをしらべよう「いろいろなふね」～
本時の目標：消防艇の3観点(役目・つくり・できること)に着目し、重要な語や文
を考えて選び出し図鑑カードを作成することができる。

指導者 青木 睦子



単元を通じた言語活動の工夫

- ・乗り物に関する図鑑などを読み、分かったこと(「役目」「つくり」「できること」)を図鑑カードに書いて、学級のみんなで図鑑を作成して交流する。
- ・学習したことをもとに図工で乗り物の絵を描いたり、国語で乗り物に乗って冒険するお話を書いたりする教科横断的・縦横的な活動。

① 単元を通してのステップ

【Good】

・図鑑カードを作成するために3観点を色付き付箋で分けたり、重要な語に線を引いたりすることを段落のまとめごとに学習を積み重ねていった。単元を通して学び方をステップで定着させることで学習スタイルが定着している児童も多かった。

【More】

・重要な語に線を引くということが難しい児童もいた。積み重ねが大切である。

② 協働思考

【Good】

・ステップの学習を積み重ねてきたため、ペアワークでアドバイスをもらって、考えを改める児童もいた。

・気づき、疑問を共有することで読み深める手立てとなっていた。

【More】

・考えの根拠となる既習事項をもっと意図的に活用できればよかった。

個への支援

【Good】

・付箋を上手に使い、ワークシートと板書が同じになるように工夫されていた。

・マス目のワークシートでの支援は有効だった。

【More】

・大事な箇所を抜き出すことは、これからも根気強く指導が必要である。

・支援の精選をしていくとよい。



児童への支援・手立て

【児童のつまずき】

- ・文章や言葉の意味が理解できない。
- ・重要な話を考えて選ぶことができない。
- ・思ったことを表現できない。

【事前に考えた手立て】

・ペアワークなどの対話的活動を仕組むことで、抵抗感なく思いを伝えることができるようにする。



実際は・・・

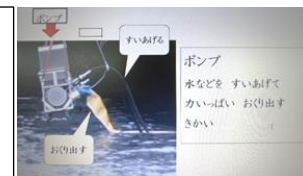
【Good】

- ・言葉の意味が理解できない児童に対しては、気づきを書いて発表することで、みんなに聞いたり、電子黒板で確認したりすることができた。
- ・ホースなど分からない言葉については、言葉だけでなく、写真と一緒に確認することができた。
- ・ペアワークの経験を積むことで、ペアで話し合うことに慣れ、リアクション(うなずくなど)もよかった。

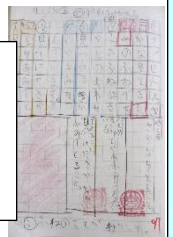
【More】

- ・重要な語を選ぶことが難しい時には、今までの学習を振り返ることができるように、既習事項の掲示物を確認することができるように、見やすい位置に掲示しておけばよかった。
- ・支援員さんがサポートしてくれることで、理解できるようになっているという面はあるが、サポートしないでできるように支援を少なくしていく必要もある。

ポンプの説明



自主勉ノート



指導・助言

西部教育事務所 指導主事 宮田知典

○言語活動が工夫されており、児童の意欲につながる必然性のあるものだった。また、語彙を増やし、質を高めるために読書活動は有効である。

○かわり合いの学習では、アドバイスによって考えが深まったり、高まったりする場面があった。自信をもたせることにつながっている。

～今後に向けて(本校研究)～

個への手立ての充実について、支援員さんのかかわり方や対象児童の学び方を検証していく必要がある。育成したい資質や能力の視点から要因・手立てを考えていく必要がある。

授業者の振り返り

○導入場面で、学級で乗り物図鑑を作成するという課題を設定することにより、自主学習での図鑑カード作成も見られ、学習意欲の継続を図ることができた。

○図鑑カードの作成手順の提示により、読書を通して自分が選んだ乗り物の図鑑カードを自力で作成する児童が多かった。また、つまずきのある児童に対して児童が的確にアドバイスをして図鑑作成に取り組むことができた。

○今後は、自立学習へ向けた支援のステップを児童と共に確認しながら学力の向上を図りたい。

